

説教題：召命の神学

鍵となる聖句: コリント人への手紙 第一 1 章 9 節 – 「神は真実であり、その方のお召しによって、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられました。」

皆さん、おはようございます。また皆さんにお会いできてうれしいです。先週、私は神学校で「弟子訓練」についてのコースを取っていると話ししました。同じ神学校のコースで、この 1 週間、私たちは関連したトピック、つまり人生における私たちの召命、クリスチャンとしての召命について学んできました。今日のメッセージのタイトルは「召命の神学」です。私が学んできたことのいくつかを皆さんと分かち合いたいと思います。ところで、ここ何週間も、水曜日の聖書勉強会で、ブルース牧師はまさにこのテーマについて教えています。今日私が分かち合うことが、ブルース牧師が水曜日に教えてこられたことを補完し、補強してくれることを願っています。

この言葉、「召し」は何を意味するのでしょうか。誰かの「人生における召命」？この言葉を聞いて多くの人が思い浮かべるのは、神が誰かを「召された」ということでしょうか。学校の先生、医者、宣教師、牧師などです。私が若い頃、叔母はよく夫のことを「天職を逃した」と言っていました。彼は話好きで、本を読むのが好きだったから、作家になるべきだったのかもしれませんが、でも、彼は代わりに中小企業のオーナーになりました。彼はその仕事あまり得意ではなかったのも、叔母は、彼は作家になるように召されていたに違いないが、方向性を間違えてしまったために召命を逃してしまったのだと言っていました。

しかし、これが「召し」という言葉の意味なのでしょうか？誰かがすることになっている特定の職業？聖書はこのテーマについて何を語っているのでしょうか？

実際、使徒パウロは多くの手紙の冒頭で、「使徒として召された」と自己紹介しています。例えば、ローマ人への手紙 1 章 1 節でこう言っています – 「神の福音のために選り分けられ、使徒として召されたキリスト・イエスのしもべパウロ、」この場合、彼はある働きに従事するための召しがありました：使徒となるために。使徒とは、福音のメッセージを広めるために神に特別に選ばれた人のことである。

しかし、ほとんどの場合、聖書はこの単語を特定の仕事や職業を指すために使っているわけではありません。新約聖書でこの「召し」という言葉が使われているところを見ると、ギリシャ語でさまざまな言葉が使われています。そして、これらの多くの場合、単に誰かの名前を呼んだり、誰かを呼んだりするときに使われます。しかしながら、もっと具体的な意味、つまり、私たちが考えている「神からの召し」の意味に近い意味で使われている場合もあります。

2-3の聖句を見てみましょう。

パウロはローマのクリスチャンに宛てた手紙の冒頭で、自己紹介を続けながら、彼らにこう語りかけます。ローマ人への手紙1章6-7a - 「あなたがたも、それらの人々の中にあつて、イエス・キリストによって召された人々です。——このパウロから、⁷ローマにいるすべての、神に愛されている人々、召された聖徒たちへ…」あるいは、「聖徒になるために召された…」

コリント人への手紙 第一1章9節 - 「神は真実であり、その方のお召しによって、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられました。」

私たちが召されているのは仕事ではなく、アイデンティティであり、関係です。私たちは「イエス・キリストとの交わりに召されて」います。私たちは、神の聖なる者となるために、この世から分かれたれ、「聖徒として召され」たのです。神は私たちすべてを、御子イエス・キリストを通して神と関係を持つように召しておられます。

これが、聖書の文脈における「召命」の主な意味です。

使徒の働き2章39節 - 「なぜなら、この約束は、あなたがたと、その子どもたち、ならびにすべての遠くにいる人々、すなわち、私たちの神である主がお召しになる人々に与えられているからです。」

これが、私たちが「召命の神学」と呼ぶものの出発点です。第一に、神は御子イエス・キリストを通して、私たちを神との関係に召してくださいています。神は私たちをクリスチャンとして、クリスチャンの弟子として召しておられます。

旧約聖書における召命の例は、創世記12:1-3のアブラハムへの召命に見ることができます。 - 「その後、主はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。²そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。³あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

アブラムは神のために分けられ、そして神が彼の子孫を大いなる国民とし - 彼らこそ選ばれた民、イスラエルの国であり - 彼らによって地上のすべての家族が祝福されるという約束を与えられます。創世記15章と出エジプト記19-20章で、神はアブラハムとイスラエル民族との間に契約関係を結ばれました。新約聖書では、この契約関係は異邦人にも拡大され、エペソ人への手紙2章やコリント人への手紙 第一1章などでは、ユダヤ人と異邦人の間の隔ての壁が取り払われたと書かれています。先週お読みしたように、マタイの福音書28章の大宣教命令では、あらゆる国の人々を弟子にするようにとされています。福音のメッセージは、神とその御子イエス・キリストとの関係に入るよう、すべての人々を招いているのです。

新約聖書では、「召命」と訳されているギリシヤ語のひとつは *klētos* (κ λ η τ ό ς) です。私のギリシヤ語辞書には、2つの定義があります：1. 「**召された**」関係や任務を意味する（ローマ 1:1, 6, 7; 8:28; 1 コ 1:1, 2, 24; ユダ 1; 黙示録 17:14+; マタ 20:16 v.r.）、2. 「**招かれた**」（マタ 22:14+）。これは、先ほど私が引用したローマ 1:1 と 1:6-7 で使われた言葉です。

「召し」に使われるもう一つのギリシヤ語は、*kaleō* (κ α λ ε ω) です。これは、数分前に私が引用したコリント人への手紙 第一 1 章 9 節で使われたものです。私の辞書にはこの単語の定義が 5 つ載っています。それらの全てを読みませんが、その中には次のような定義がありますが：何かを**名指す**こと、誰かを**呼び出す**こと、誰かを**招待**すること、仕事のために**召す**こと。

[1.名づける、何かの固有名詞を指す（ルカ 2:4）、2.呼ぶ、帰属を与える（マタ 1:23、ヤス 2:23）、3.召集する、来るように、集まるように人に言う（マタ 25:14）、4.任務に召集する（2 テサ 2:14）、5.招く、誰かに招待状を差し出す（ルカ 14:8、コリ 1:12 v.r.）。]

この二つの言葉が、関係や仕事への呼びかけだけでなく、誰かへの招きにも使われていることに注目してください。私たちはイエス・キリストを通して、生ける神との関係に招かれています。その後、なすべきことがあるのです。

一週間前、神学校での講義のために、ディサイプルシップについてのビデオ講義を見ていることをお伝えしました。先週から、ダニエル・ドリアーニ博士が教える「日常生活の神学」という別のコースのビデオ講義を見えています。彼が講義の中で言っていることを引用しましょう：

召命の聖書的神学を学びたいのであれば、まず気づかなければならないのは、「召命」という言葉は、実は人生における私たちの居場所について主に使われているのではないということです。聖書が召命について語る主な方法は、特に新約聖書では、神自身に対する神の召命、すなわちキリストを信じ、キリストとの結びつきの中で忠実に生きるようにという神の召命です。そして、すべての人間が福音の中でキリストのもとに来るように召喚されるという一般的な呼びかけの後に、人生における私たちの場所に対する特別な呼びかけがあります。だから、仕事は私たちの主要な召命でも最初の召命でもないので。最初の召命はキリストへの召命であり、聖なる者、神のような者となることへの一般的な召命です。例えば、ローマ人への手紙 1 章 6 節で、パウロは「私たちはキリストに属するために召されています」と言っています。そして、テサロニケ人への手紙第二 [2:24] で、パウロは「私たちは、主イエス・キリストの栄光を分かち合うためにめされています」と言っています。そして最後に、パウロはコリント人への手紙 第一 [1:9] で、「私たちの主イエス・キリストとの交わりに召されています」と言っています。これが主な呼びかけです。これは私たち全員が共

有している呼びかけです。私たちは神のもとに来て、神のうちに生きるべきです。そうすれば、人生における特別な召命を求めることができます。¹

. 私たちはキリストのみもとに来て、キリストとの交わりを持つように召されています。私たちは聖なる者となり、神を敬う生き方をするように召されています。

私のお気に入りの聖句の一つであるエペソ人への手紙 4章1節で、パウロはこう言います – 「さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。」 私たちは、上からの召しがあります。ですから、私たちのライフスタイルは、私たちが愛し仕えていると言っている主を反映したものでなければなりません。私がこの聖句を気に入っている理由は、私たちは皆、自分の不完全さやクリスチャンの道から外れる誘惑に対処しなければならないからです。この聖句は、キリストに集中し、キリストを尊ぶ生き方をするよう私を励ましてくれます。

私が見ているビデオ講義の中で、ドリアーニ博士はコリント人への手紙 第一7章 17-24節に焦点を当てています。その箇所の最初の節を読んでみましょう。17節でパウロはこう言っています – 「ただ、おのおのが、主からいただいた分に応じ、また神がおのおのを召しになったときのままの状態を歩むべきです。私は、すべての教会で、このように指導しています。」

主は私たちに場所を割り当てられ、その範囲内で忠実に歩むようにとされているようです。この聖句について、私のビデオ講義はこう語っています：

さて、これは驚くべき発言です。まず第一に、神は居場所を決めておられ、神は人々を人生の居場所に召しておられるということです。しかし、その召命は私たちの過去に影響されます。言い換えれば、家族、過去、歴史、父親や母親、その他の親族が行った仕事が、私たちを形作ることがあるのです。

その引用の最後の部分に私は興味をそそられます：家族、過去、歴史、おそらくは父親や母親が行った仕事は、私たちが誰であるかを形作ることができます。私たちの家庭環境、歴史、民族的背景は、私たちが誰であり、どこにいるのかを形作っています。ユダヤ人であろうと異邦人であろうと、アメリカ人であろうと日本人であろうとフィリピン人であろうとヨーロッパ人であろうと、それがあなたを形成し、ある種の機会を与えてくれます。そしてそれは偶然ではないと、私のコースの先生は言います。神はすべてを支配しておられ、あなたが育ったその状況に置かれたのです。

8年か10年ほど前、私は自分が成長する過程で得た素晴らしい特権について振り返り始めました。私には信仰深いクリスチャンの母親がいましたが、その母親は自分の子供たちを町で最高の日曜学校プログラムに入れました。それは彼女が育った宗派とはまったく違う教会だったのですが、彼女は子供たちを良い日曜学校プログラムに入れたかったのです。

¹ Daniel M. Doriani, *PC151 Theology of Everyday Life*, Logos Mobile Education (Bellingham, WA: Lexham Press, 2014). Segment 16.

実際、ルーテル教会は教育において素晴らしい仕事をしていると思います。母はまた、子供たちを夏休みにキリスト教の子供向けプログラムにも参加させました.....その後、YMCAのサマーキャンプにも参加させました。その後、両親は息子たちをカブスカウトやボーイスカウトに参加させました。父は息子たちをカリフォルニアのトップクラスの大学に行かせる余裕がありました。その大学には、優れたクリスチャン・キャンパス・ミニストリーがありました。数年前、自分の青春時代の特権を振り返って、私は驚嘆したのです。先週のビデオ講義で聞いたところによると、これは偶然ではなく、神の御手が私たちの生い立ちに関わり、私たちと私たちの機会を形作っているのだということです。数年前、自分の青春時代を振り返っていたとき、前任牧師のアリスター牧師から、ときどき説教をするように頼まれました。私は恥ずかしがり屋で、人前で話すような人間にはなるつもりはなかったのですが、落ち着いてイエスと答えました。このような依頼を断ることはできませんでした。私はクリスチャンの教えを生涯にわたって受けてきたし、今、牧師と私の教会は、この知識を教会の家族と分かち合うよう私に求めています。今、この引用を見ると、神が私たちを将来奉仕の場に立たせるために、どのように私たちの生い立ちを形作られるのかがわかります。

ユダヤ人であろうと異邦人であろうと、アジア人であろうとヨーロッパ人であろうと、あなたの生い立ちには何らかの意味があります。コリント人への手紙 第一7章を読んでみましょう。

コリント人への手紙 第一7章17-20節-「ただ、おのおのが、主からいただいた分に
応じ、また神がおのおのを**お召しになった**ときのままの状態です。私は、すべての教会で、このように指導しています。¹⁸**召された**とき割礼を受けていたのなら、その跡をなくしてはいけません。また、**召された**とき割礼を受けていなかったのなら、割礼を受けてはいけません。¹⁹割礼は取るに足らぬこと、無割礼も取るに足らぬことです。重要なのは神の命令を守ることです。²⁰おのおの自分が**召された**ときの状態にとどまっていなさい。」

ユダヤ人として生まれたのなら、違うものになろうとしてははいけません。もしあなたが異邦人として生まれたのなら、ユダヤ人になって割礼を受けようとしてははいけません。割礼はイスラエルとの契約の印にすぎません。この外見上の印は重要ではないのです。重要なのは神の戒めを守ることです。神があなたをクリスチャンとして**召された**とき、あなたがどのような状況にあったとしても、そこにとどまることに満足してください。そして、現在の状況において、忠実で従順な弟子となってください。

続けて読みましょう。コリント人への手紙 第一7章20-24節-「おのおの自分が**召された**ときの状態にとどまっていなさい。²¹奴隷の状態で**召された**のなら、それを気にしてはいけません。しかし、もし自由の身になれるなら、むしろ自由になりなさい。²²奴隷も、主にあつて**召された**者は、主に属する自由人であり、同じように、自由人も、**召された**者はキリストに属する奴隷だからです。²³あなたがたは、代価をもって買われたのです。人

間の奴隷となつてはいけません。²⁴ 兄弟たち。おのおの**召された**ときのままの状態で、神の御前にいなさい。」

奴隷制度は古代世界の一部でした。クリスチャンになった奴隷もいました。自由になれば、奴隷の状態のままよりもキリストに仕えることができるかと考えるかもしれません。しかし、パウロは違うと言っています。奴隷のままでも、忠実で活発なクリスチャンの弟子であり続けることができます。事実、奴隷の状態にあっても、忠実なクリスチャンでいることによって、主人や奴隷仲間に対して良い証人となることができます。その状態から抜け出そうとする必要はありません。しかし、自由を得るための正当な機会が与えられているのであれば、その状況を変えることも禁じられてはいません。ここでの原則は、状況を変える必要はないということです - あなたは今いる場所で、キリストの忠実な証人となることができます。

つまり、ここまで述べてきたことは、クリスチャン生活への**召命**とは、第一に神との関係への召命であり、キリストの忠実な弟子となるための召命であるということです。あなたが今いる**場所**は二の次である。重要でないわけではありませんが、二次的なものです。実際、あなたが今いる場所は、あなたが育ってきた状況によって左右されるものであり、それは神の主権の傘の下にある。

この聖句を読みながら、私は母国以外の外国に住むことを模索すべきだったのだろうかと考えました。アメリカにとどまるべきだったのでしょうか？父は旅行が好きで、家族でアメリカ、メキシコ、カナダを旅行していました。私はどちらかというと言った冒険好きに育ちました。先週の講義を聞いて、私の冒険心は生い立ちの一部であり、それが海外に住むという決断に影響していることがわかりました。

私は**召命**について議論してきました。私たちは議論を**場所**の話題に移しました。あなたが今いる場所や状況がどのようなものであれ、忠実であることを求めるべきですし、それを
変える必要はありませんが、変えることが必ずしも間違っているわけでは
ありません。次に、**すべき仕事**の話題に移りたいと思います。自分の人生でいったい何をすべきなのか。特定の職業やミニストリーの職に召されているのでしょうか？フルタイムの聖職に就く方がいいのか、それとも世俗的な仕事でもいいのでしょうか。

実は、この最後の質問は、私たちが「聖俗分断」と呼んでいる問題に踏み込んでいます。ある仕事は、ある仕事よりも神聖なののでしょうか？聖職者は世俗的な仕事よりも霊的なの
のでしょうか？実は、プロテスタントのクリスチャンは伝統的にノーと言ってきました。ど
のような仕事であっても、正しい精神でそれを遂行し、忠実なクリスチャンであり続ける
ことができれば、神を賛美する仕事になり得るのです。

プロテスタントの改革者マルティン・ルターは、農夫の仕事も聖職者の仕事と同じように
霊的なものになりうると言ったのは有名な話です。自分の召命を果たしている限り、いわ

ゆる世俗的な仕事であろうと、フルタイムの聖職者としての仕事であろうと、違いはないのです。どちらの召命も重要なのです。

太古の昔、創世記1章で、神は人間を創造し、人間に仕事を与えました。

創世記1章26-28節-「そして神は、「われわれに似るように、われわれのかたちに、人を造ろう。そして彼らに、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配させよう。」と仰せられた。²⁷神はこのように、人をご自身のかたちに創造された。神のかたちに彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。²⁸神はまた、彼らを祝福し、このように神は彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。」

神は男女に**任務**を与えました。大地を管理する管理者としての仕事を任されたのです。したがって、仕事とは神によって定められたものです。農業であれ、牧畜であれ、建設業であれ、主婦であれ、クリスチャンの牧師であれ、すべての仕事は重要であり、そのすべてが神によって定められています。ある仕事が他の仕事より霊的であるといった区別をする必要はありません。

しかし、私たちは皆、神から特定の**賜物**を与えられています。コリント人への手紙 第一12章には、私たちが教会で果たすべきさまざまな務めを果たすために、神がさまざまなクリスチャンに与えたさまざまな賜物について書かれています。**霊的な賜物**を見分けることによって、主が私たちにどのような務めをさせようとしておられるかがわかるのです。

コリント人への手紙 第一12章7節-「しかし、みな**の**益となるために、おのおのに御霊の現われが与えられているのです。」

エペソ人への手紙4章7節-「しかし、私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました。」

11-12節-「こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。¹²それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、」

あなたと私は聖徒であり、キリストのからだを建て上げるために、教会で奉仕の業（ミニストリーの業）を行うべきなのです。キリストが教会に使徒、預言者、伝道者、牧師、教師をお与えになったのは、教会の聖徒であるあなたや私にミニストリーの働きをさせるためです。

それが私たちの**召命**です。キリストが私たちをお定めになった**場所**で、キリストに忠実に従う者となり、キリストが私たちに与えてくださった**すべき仕事**を果たすことです。

しかし、あなたの賜物は何ですか？これは多くのクリスチャンが抱く疑問です。

新約聖書には、第一コリント 12 章、エペソ 4 章、ローマ 12 章など、霊的賜物のリストがいくつかあります。これらのリストはそれぞれ代表的なものであり、すべての賜物を網羅しているわけではないようです。熱心なクリスチャンの中には、今お話しした 3 つの章に列挙されているそれぞれの賜物に関連して、あなたの興味や能力に関するたくさんの質問に答えるためのアンケートを作成した人もいます。しかし、私はこのようなアンケートには懐疑的です。特に役に立つとは思えないからです。実は何年も前、OIC の元牧師も同様に、このような霊的賜物のアンケートには懐疑的でした。彼のアドバイスは、単純に、あなたが教会で目にするミニストリーの一つで働いてみて、その分野であなたに適性があるかどうかを見て、あなたのパフォーマンスについて肯定的な、あるいは否定的なフィードバックがあれば、先に進み、別のミニストリーの仕事を試してみることでした。あるミニストリーの仕事を離れて、あなたの賜物にもっと適しているかもしれない別のミニストリーの仕事を試してみることは悪いことではありません。

先週聴いた講義の中で、自分に与えられている賜物を見分ける方法の概要について聞きました。今日の説教の最後に、そのアウトラインを紹介します。これはジョン・フレームという神学者の言葉です。彼は、私たちの召命と賜物が何であるかについての知識は、4 つの情報源から得られると言います：

第一に、神は人類に賜物を与え、その中には神の民に賜物を与えることも含まれます。
第二に、聖霊が私たちの内に働いて、私たちが識別のプロセスを始めるのを助けてくださいます。最初はうまくいかないかもしれないが、他の人からのフィードバックによって、自分の賜物が何であるかを知ることができるかもしれません。
第三に、神は私たちが自分の賜物を発揮し、発展させる機会を与えてくださいます。この段階でも、メンターからのフィードバックやアドバイスが役立ちます。
第四に、神は私たちに、神を讃え、隣人を祝福するような方法で賜物を用いる知恵を与えてくださいます。例えば、自分に与えられている賜物を使って、神の栄光を現し、周囲の人に益をもたらすための知恵を与えてくださることを通して、自分の召しと賜物を知る。

最後に、先週聴いた講演からもうひとつ引用しましょう。これです：

もう一度言いますが、「世界を知り、あなたを知り、あなたを愛し、あなたを気遣う賢明な人々 - 利己的な意図を持たない人々 - は何をしますか？一度だけでなく何度も何度もあなたに頼むのは何でしょうか？」これは、良い質問です。あるいは、これは同じことですが、別の方法です。- あなたが何かをするとき、人々はあなたにもう一度それをするように頼みますか？あなたが、ある仕事をするように誘われた時、「また来て、それと同じことをしてください。」と言われるのでしょうか？そのようなことがあれば、おそらくあなたは自分の天職、召命、賜物の近くにいるのでしょう。